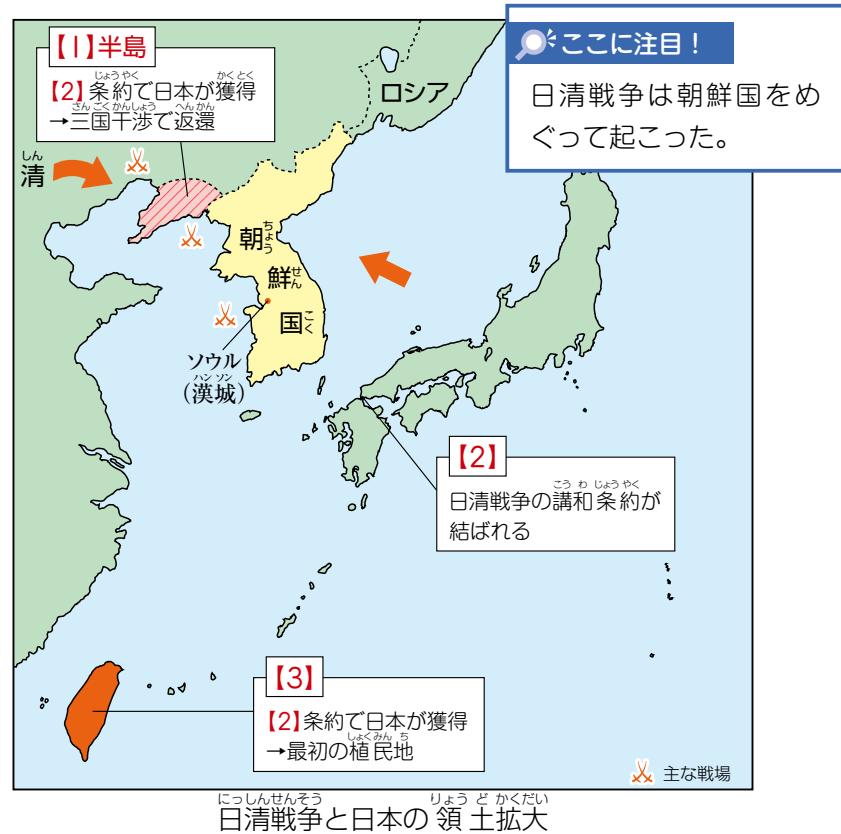




明治時代に富国強兵政策を進めた日本は、領土の拡大をはかって外国との戦争を行うようになります。ここでは日清戦争について見ていきましょう。



日清戦争の開戦

- 明治政府は、1875年の江華島事件をきっかけとして1876年に朝鮮国（朝鮮）と日朝修好条規を結び、領事裁判権などの不平等な内容をおしつけました。
- 中国の清は、以前から朝鮮国に対して大きなえいきょう力をもっていたため、朝鮮国をめぐる清と日本の対立が深まっていきました。
- 1894年に朝鮮国内乱が起こると、清と日本が相次いで朝鮮に軍隊を送りました。こうして日清戦争が始まりました。

日清戦争の結果

- 日清戦争は、明治政府のもとで軍隊の近代化を進めていた日本の勝利に終わり、1895年、日本の【2】（山口県）で講和会議が開かれ、【2】条約が結ばれました。
- 日本は、【2】条約で清から【3】・【1】半島などの領土と多額の賠償金を手に入れるとともに、朝鮮の独立を清に認めさせました。
- 満州（中国東北部）に勢力を広げようとしていたロシアは、【4】・ドイツをさそい、【1】半島を返すよう日本に強く求めました。日本はこの3国の軍事力にはかなわないと判断し、【1】半島を清に返しました（三国干渉）。

日清戦争後の日本

- 日本は、【2】条約で獲得した【3】を最初の植民地として、【3】総督府を置きました。
- 日本が得た賠償金は、戦争にかかった費用よりはるかに多い金額でした。明治政府は、賠償金の一部を使い、北九州（福岡県）に官営の八幡製鉄所をつくりました。
- 八幡製鉄所は1901年に生産を開始し、中国から鉄鉱石を輸入して原料とし、九州の筑豊炭田でとれる石炭を燃料にして製鉄を行い、やがて国内の鉄の約8割を生産するようになりました。



八幡製鉄所の位置

ポイント 獲得した領土を覚えよう！

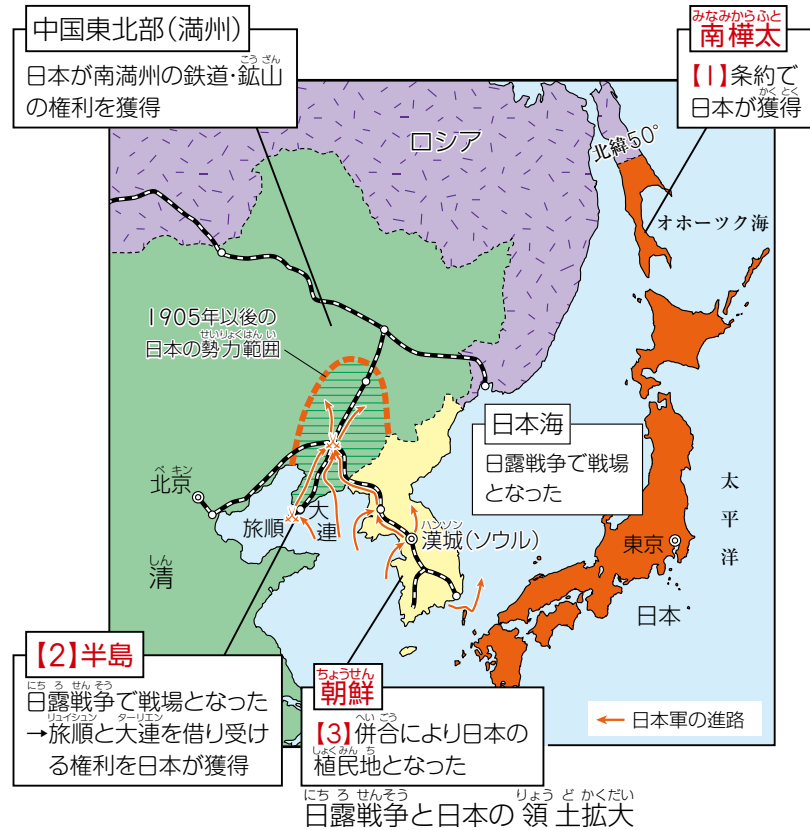
- 日清戦争によって獲得した領土…台湾・遼東半島など
→三国干渉で遼東半島は返還
- 日清戦争の講和条約が結ばれた地…下関
- 八幡製鉄所がつくられた地…北九州

入試ではここが問われる！

- 下関条約で日本が得た領土はよく出題されており、三国干渉で返還した地域、植民地として支配を続けた地域の区別が必要です。
- 下関や八幡製鉄所の位置を問う問題も見られます。



19世紀末に日清戦争に勝利した日本は、ロシアと対立を深めていきました。日露戦争が起こった20世紀初めごろの日本について見ていきましょう。



日清戦争後の東アジア

- 清の力がおとろえているのを知ったヨーロッパ諸国は、競って中国各地に進出し、鉄道をつくる権利、鉱山を経営する権利などを得ていきました。
- ロシアは、日本に対する三国干渉で【2】半島を清に返還させたのち、【2】半島南部の旅順と大連を借り受け、中国東北部に勢力をのばしました。
- ロシアとの対立を深めた日本は、1902年、ロシアの動きを警戒するイギリスとの間に【4】同盟を結びました。

日露戦争とポーツマス条約

- 1904年、日本がロシアに宣戦し、日露戦争が始まりました。
- 日本軍は、強大なロシア軍を相手に苦戦しながらも、旅順を占領するなど戦果を上げました。1905年には日本海での戦い(日本海海戦)で、東郷平八郎の率いる連合艦隊が、ロシアのバルチック艦隊を破りました。
- 日本とロシアは、資金の不足や国内情勢の悪化から戦争を続けられなくなり、1905年9月、アメリカ合衆国(アメリカ)大統領の仲立ちにより、【1】条約を結びました。【1】はアメリカ北東部の地名です。

ポーツマス条約の主な内容

- ロシアは樺太(サハリン)の南部を日本にゆずる。
- ロシアが清から借りていた旅順と大連は、日本が借り受ける。
- ロシアは南満州鉄道を日本にゆずる。
- ロシアは日本が【3】を指導することを認める。

韓国併合

- 朝鮮国(朝鮮)は、日清戦争後の1897年、国号を大韓帝国(【3】)と改めました。
- 日露戦争後の【1】条約で韓国に対する立場を強めた日本は、外交や国内政治を行う権利を【3】から次々にうばっていきました。
- 1910年には【3】を併合し、朝鮮を植民地として朝鮮総督府を置きました。

ポイント 獲得した領土を覚えよう!

- 日露戦争…1905年にロシアから樺太の南部(南樺太)を獲得
- 韓国併合…1910年に朝鮮を植民地とする

入試ではここが問われる!

- 日露戦争で戦場となった旅順などのある遼東半島の位置が問われます。
- 日露戦争で日本が獲得した領土はよく出題されます。日清戦争で獲得した領土などとまちがえないよう、区別して覚えておきましょう。